

◆総務委員会

◆道南バス市内路線運賃収入
2年連続赤字

富岡 隆 委員長

道南バスが運行している市内路線バスの運賃収入について2年連続赤字になっていることが報告されました。市側は、「バス利用者の減少傾向は今後も続くと思うが、事業者と一緒に利用促進に向け取り組みたい」と答えました。

質疑の中で委員から「市が道南バスに対し路線への補助金を出しているのに、一方で無料送迎バス（イオンへ）を出している」ことを問題視。市側は、「あまり過度なことがあれば言わなければならぬ」と述べた。また道南バスと市が行っている運行連絡会議の中で、運転手のマナーや対応が悪いなど20件を超える苦情が市民から寄せられて、いることも明らかにしました。



市内路線バス「道南バス」

◆厚生委員会

◆有害ごみ及び資源物（缶・ビン）の回収方法変更の報告

松尾 省勝 委員長

家庭から排出されるスプレー缶・卓上ガスボンベ・電池などの有害ごみは、現在「燃やせないごみの日」に透明または半透明の別袋に入れて排出しています。

収集車では、誤って指定ごみ袋の中に有害ごみが入り込んだ場合、積み込み圧縮される際に破裂を起し、火災の原因となっています。

また、資源物も缶とビンが同じ袋に入っていることにより、割れたビンが缶の中に入り込んで、リサイクルに困難があることなど、改善の必要性について報告されました。

委員からはごみ収集車の火災状況や資源物の回収方法変更に伴うごみカレンダーの再発行、市民周知の方法などの質疑がありました。



ごみ収集作業

◆文教経済委員会

◆「苫小牧市科学センターのあり方について」が示されました

宇多 春美 委員長

科学センターは、昭和45年に設置され平成11年12月には「ミール展示館」を増設するなど、科学教育の中心的な施設として幅広い年齢層の方々にご利用されてきました。が、建物の老朽化などさまざまな計画との整合性を図り、今後のあり方として「理科・化学の好きな児童・生徒を育てる機能のさらなる充実」をはじめ5項目から13策が示され、次世代を担う青少年に対する科学的知識の普及・市民生涯学習の場としての機能の充実・強化に取り組みと示されました。

そのほかに、公益財団法人道央産業振興財団の平成29年度技術振興事業・地域産業活性化事業の報告と30年度事業計画が示され、質疑がありました。



苫小牧市科学センター

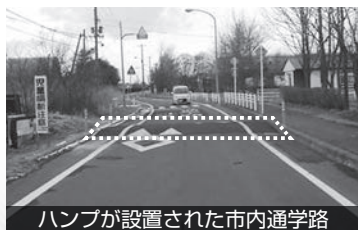
◆建設委員会

◆道路交通安全対策事業の取組報告！

越川 慶一 委員長

全国で登下校中の児童が交通事故で死傷する事象が発生し、その多くの原因は「歩道が狭い」「スピードを出す車両が多い」などでした。市は通学路の安全確保を目的にハンブや横断歩道のカラー着色、防護柵などを設置し、対策後の効果を検証。一定の効果があつたことから今後さらなる交通安全対策に向けた取り組みを行います。

また、市営住宅熟供給管の各団地別アスベスト含有の可能性を調査し、市営住宅61棟のうち29棟で保温材にアスベストが含まれている可能性が高いと分析。解体工事などでアスベストが見つければ周知を含め対応を行います。なお、解体しない市営住宅は飛散の可能性が低く現状のまま利用します。



ハンブが設置された市内通学路